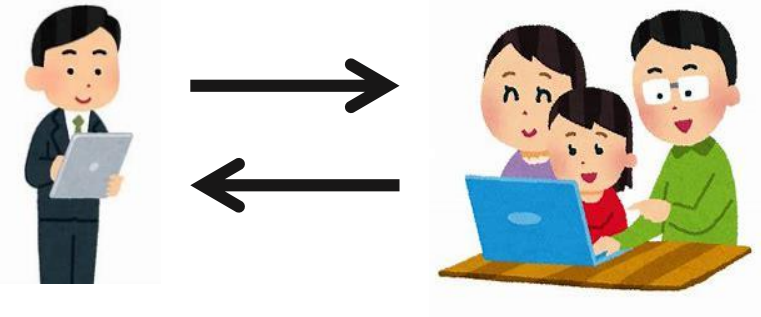
事例研究

中学部1年生

卒業後の働く生活を見据えた学校と家庭の協働した取組
～ICTを活用して学習効果の最大化を図る～

中学部　多田　肇



Before

生徒のプロフィール

○中学部1年生6人の障害種など

女子A	IQ75	B2	脳梁全欠損
男子A	IQ42	B1	ダウン症候群
男子B	IQ31	A2	ウエスト症候群 運動精神遅滞
女子B	IQ38	B1	歌舞伎症候群 中等度知的障害 精神運動発達遅滞
男子C	IQ50	B1	自閉症 ADHD
男子D	IQ64	B2	身体・精神発達遅滞 自閉症 注意欠陥多動性障害

○行動の様子

・学校で学んだことを言葉で保護者に適切に伝えることが難しい。
・自分の考えたことや気付いたことなどを友達に伝えたいという気持ちが強い。
・中学部での学習は不安がありながらも意欲的に取り組む姿が見られる。など

生徒の実態把握から授業内容へ

「卒業までに身に付けてほしい力」アンケート(※1)

「現在身に付いている力」アンケート(※2)

「フォローアップミーティング」(※3)

重点的指導内容・方法の整理

※１：本校卒業生が就職した一般企業と就職支援コーディネーターが職場開拓で訪問した「障がい者を雇用している」「雇用しようと検討している」一般企業を対象に，在学中に身に付けてほしい力について７６項目のアンケートを実施し，100社から回答を得た。（H30年度）

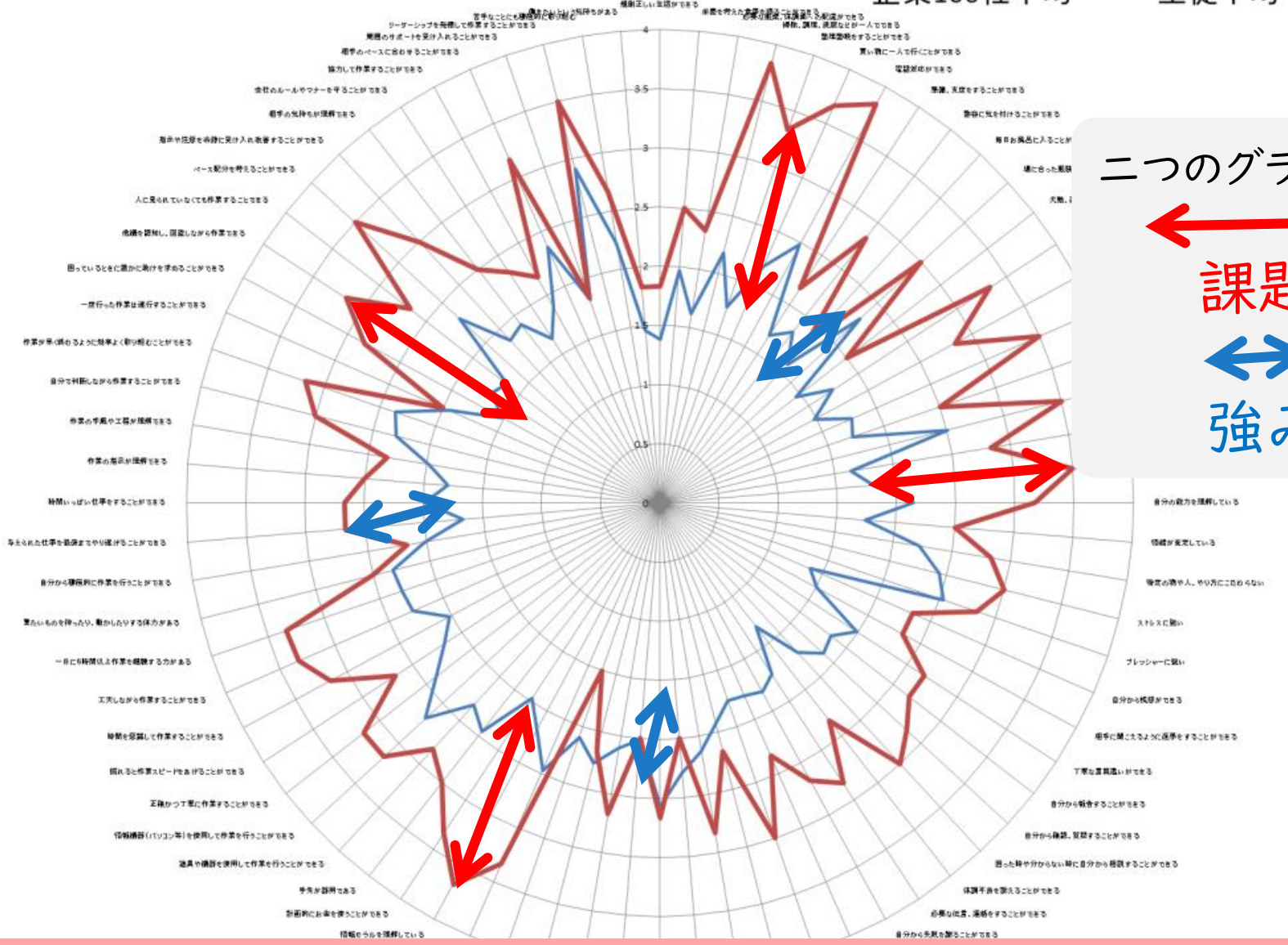
※２：一般企業100社への「卒業までに身に付けてほしい力」アンケートを保護者向けに改編。

※３：卒業後３年・６年・１０年目に該当する卒業生を対象に，本人・保護者・就労先の担当者や関係機関・学校担当者が一堂に会して現状を共有し，今後の支援や役割分担を確認するミーティングを実施し，状況の数値化と聴き取りの結果を示すもの。（R1年度）

☆**上記※１，※３のアンケートは令和元年度研究紀要を参照**

こちらを検索→http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp

卒業までに身に付けてほしい力と生徒の実態の差



二つのグラフの差

課題

強み

中央に近づくほど力が身に付いている

アンケート結果による生徒の課題

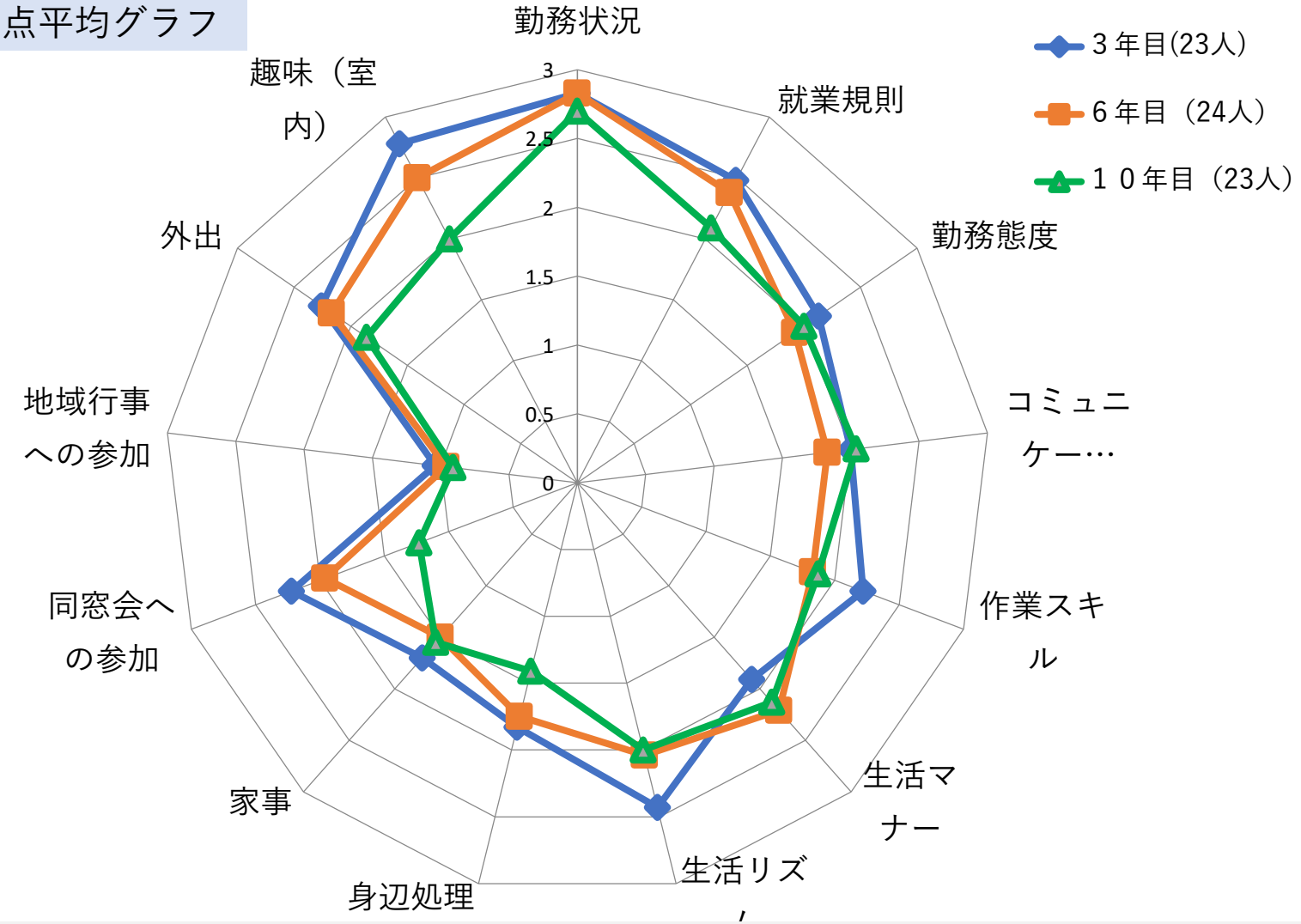
生活に関すること	掃除，調理，洗濯などが一人でできる。
	整理整頓をすることができる。
	買い物に一人で行くことができる。
	公共交通機関を利用することができる。
	自然災害時に避難することができる。
自己理解	自分の障がいや特性を理解している。
情報	情報モラルを理解している。

アンケート結果による生徒の強み

生活に関すること	規則正しい生活ができる。
交際について	身近な人や友人と適切な関わりができる。
余暇の過ごし方について	将来の目標（楽しみ）をもっている。
	家族や友達とでかけることができる。

卒業後の「フォローアップミーティング」結果

経年別素点平均グラフ



「趣味」や「家事」「身辺処理」が低くなっており，仕事以外の外出の機会が次第に減っている。

重点的指導内容・方法の整理

高等部卒業後を見据えた中学部3年間での目標

〇掃除，調理，洗濯などが一人でできる。

→生徒の課題より：家庭でできることを増やす。

〇家族や友達とでかけることができる。

→生徒の強みより：余暇活動の充実。

指導形態・学習内容

①職業・家庭科「くらし」にて

【家庭分野】

「B 衣食住の生活」

「C 消費生活」

②おはようスタディにて（※1）

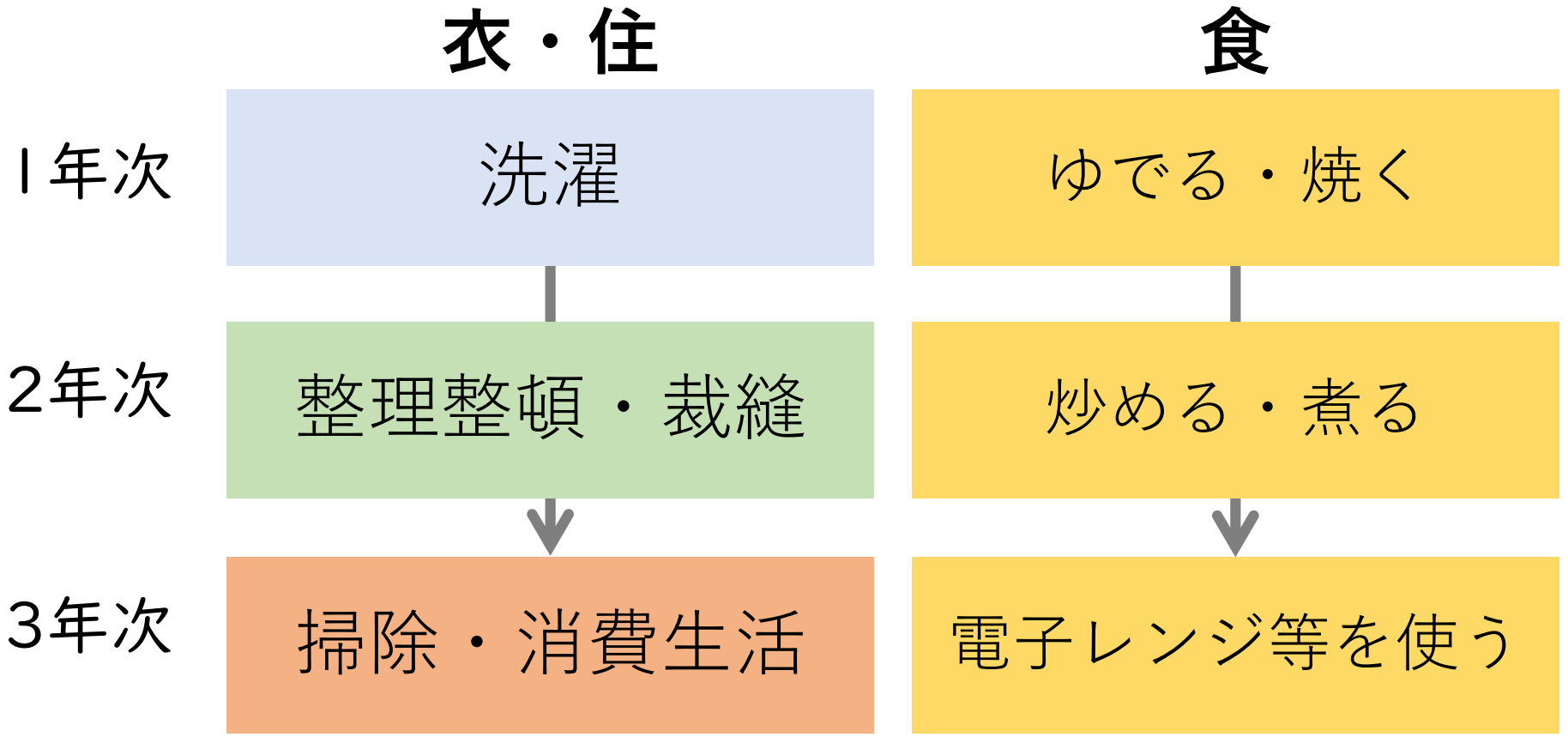
【家庭分野】

「A 家族・家庭生活」

※１：毎日１５分間の教科別の指導

中学部3年間の職業・家庭科「くらし」の学習計画

「くらし」の学習では，暮らしに必要な衣食住に関する生活技能を身に付け，家庭での役割を担い協力する態度を育成する。



衣・住は内容項目を，食は調理の工程ごとに3年間に分けて取り組む。

昨年度までの「くらし」の授業記録及び家庭生活の様子の共有化

プリントや連絡帳を介したやりとり

保護者のサイン

△どのような様子で取り組んでいたか教師が十分に把握できない。
△家庭で掃除や調理の方法が異なるので，生徒が戸惑うこともある。
△どのような授業を受けてきたか，子どもの話だけでは伝わりづらい。

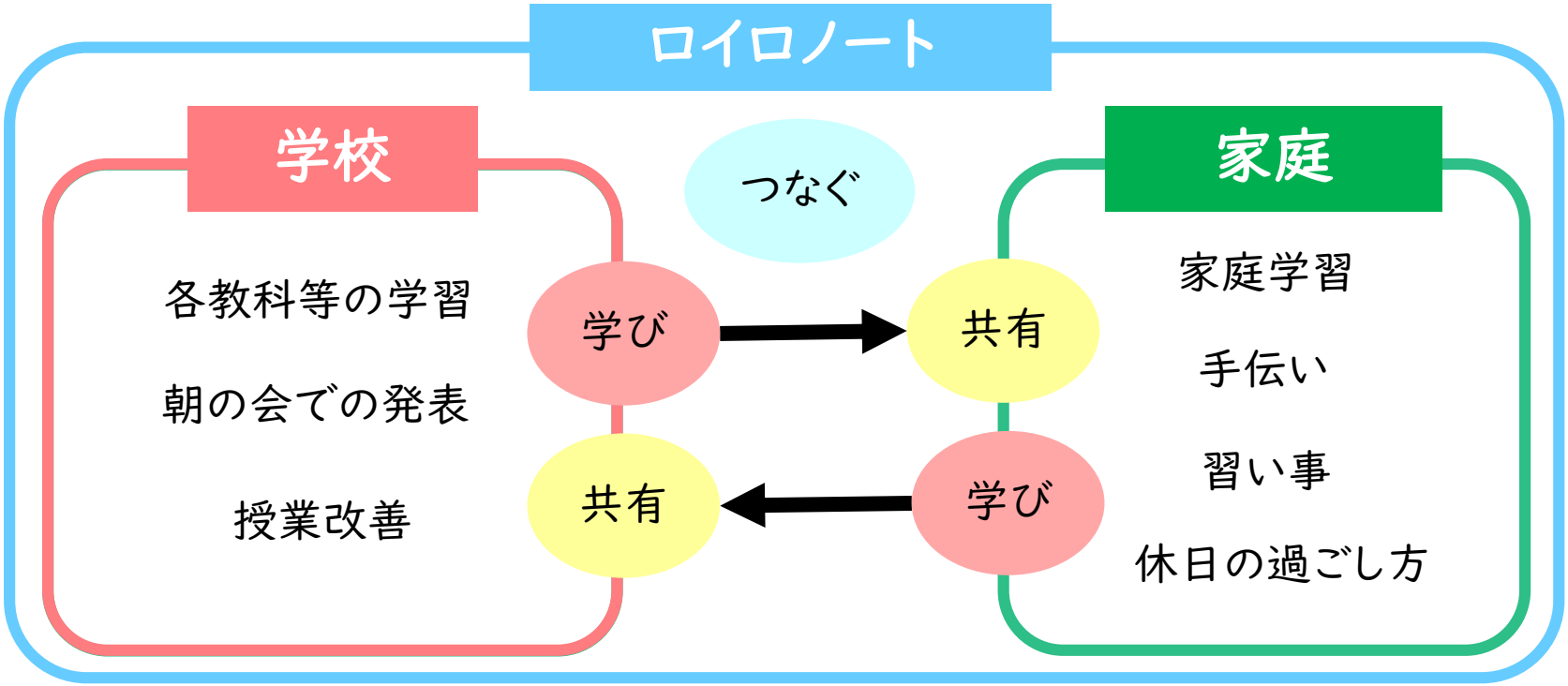
学びの最適化を図るにはどのような方法がよいのか？

本取組について

仮説

ICTを活用することにより，学校での学びを家庭生活に確実につなぎ，また，家庭生活での様子をクラスで共有していくことで家庭生活や余暇生活が充実するのではないか。

方法



育成すべき情報活用能力

知識及び技能	・ICT機器の基本的な操作（簡易な入力，写真撮影など）ができる。 ・発信したい情報を集めることができる。 ステップⅠ
思考力，判断力，表現力等	・伝えたい相手のことを考えて情報を整理しようとする。 ステップⅠ ・準備された情報を基に，手順や方法を考えて実行しようとする。
学びに向かう力，人間性等	・自分と友達の情報伝達の違いや良さに気付く。 ステップⅠ ・発信したことを振り返り，良さに気付く。

※情報活用能力の体系表例（IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの）より

指導の実際①

洗濯「ランドリー名人になろう」実践事例

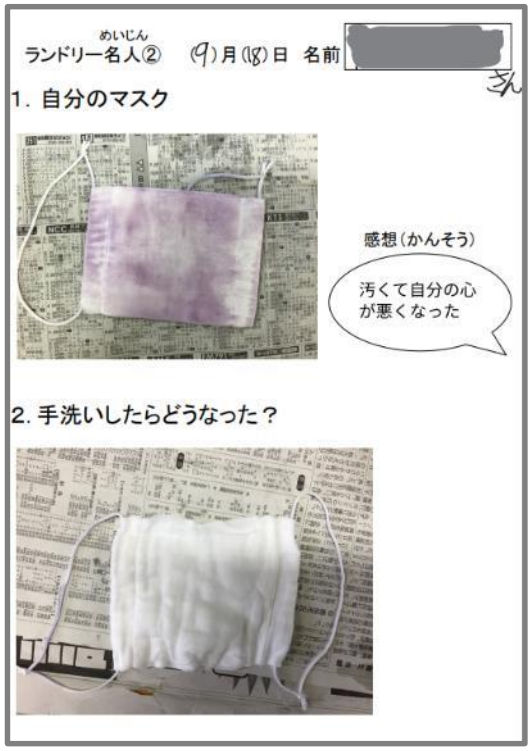
学習のねらい

自分が身に着けている物の汚れを可視化し，洗濯の必要性に気付く。

授業前のワークシート

ニンヒドリン反応による自分のマスクの汗チェッカー

SCHOOL



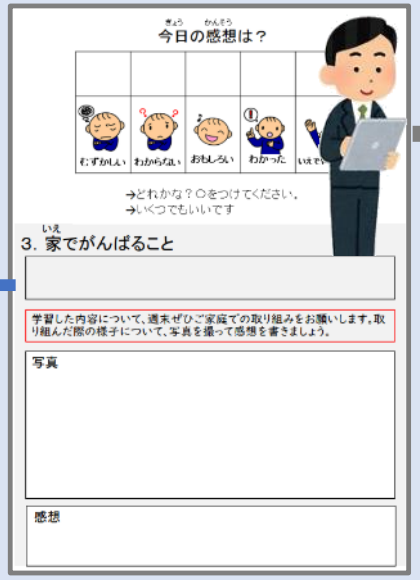
授業後のワークシート

ロイロノートに添付したワークシートに写真や感想を載せることができ，効果的に授業を進めることができた。

指導の実際①

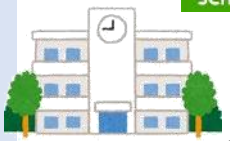
洗濯「ランドリー名人になろう」実践事例

授業後のワークシート



家庭の宿題

授業後に送信



取組後提出

家庭での手洗いの取組

授業後に各家庭に送信し，学校での授業を家庭と共有。家庭での取り組みの様子を写真や動画で送ってもらうことで，次の授業につなげることができた。

指導の実際②

調理「コーンスープをつくってみよう」実践事例

学習のねらい

「ゆでる」調理の工程に必要な基礎的な知識・技能を高める。

授業前のワークシート

沸騰の様子の動画

湯気の写真

元栓の写真

授業中の動画や写真を貼り，いつでも振り返ることができるようにする

授業後のワークシート

授業の中での気付きや学習のポイントとなるところを，クラス全員そして家庭とも動画や写真で共有化できた。

指導の実際②

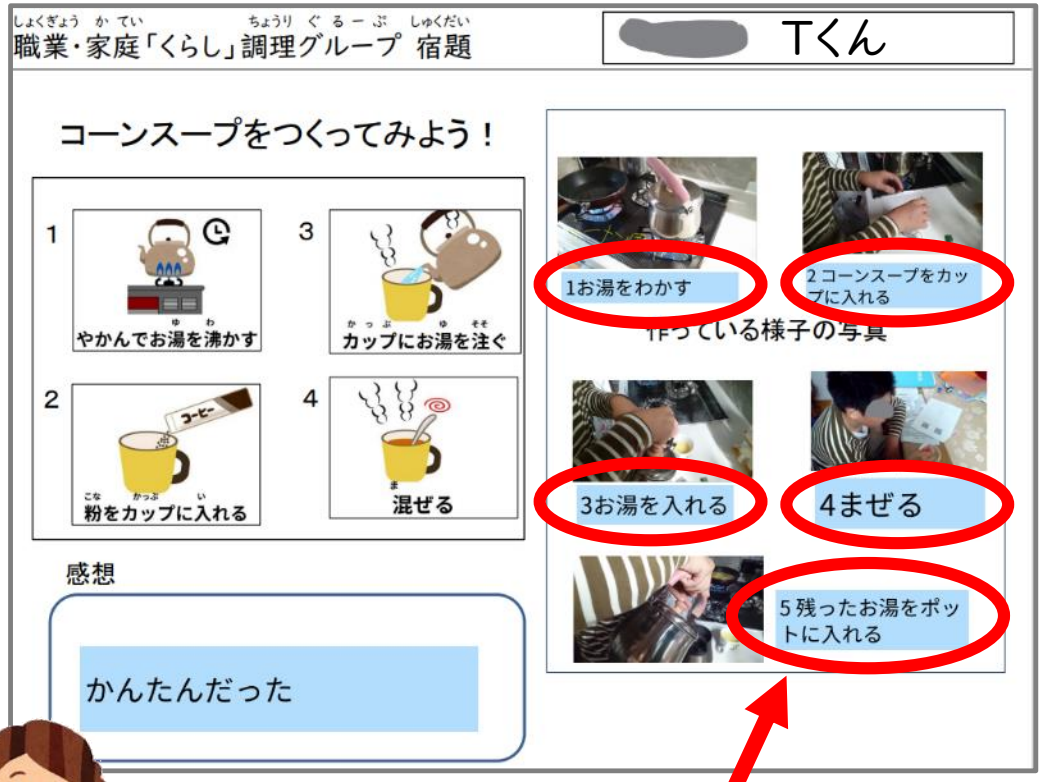
調理「コーンスープをつくってみよう」実践事例

家庭の宿題

授業後に送信

SCHOOL

取組後提出



自分で入力までできた

私は撮影だけで本人でほとんど取り組んでいました。

Tくん保護者

ロイロノートによる宿題を積み重ねるごとに，文字入力や情報の発信の工夫など，生徒の機器操作のスキルも向上していった。

指導の実際③

「家庭生活の様子を発表しよう」実践事例

9月19日～22日の4連休の宿題

8月末に実施した「ロイロノートの親子勉強会」後に取り組んだ。

カード（原本）の送信

休日の余暇活動

カードの作成・提出

連休後の発表

保護者や兄弟のサポートを受けながら，写真を撮影したり，感想を記述したりして提出できた。

指導の実際③

「家庭生活の様子を発表しよう」実践事例

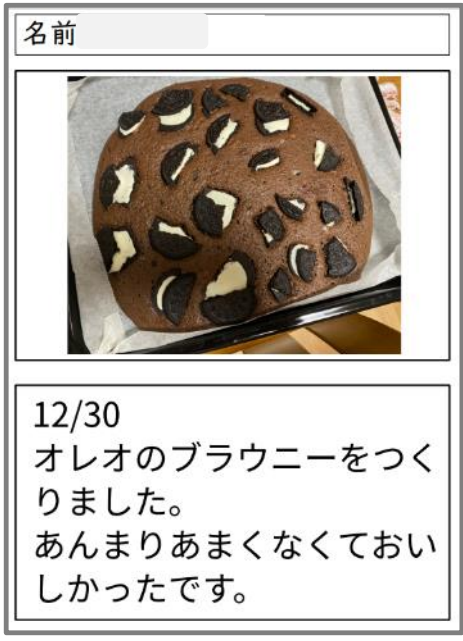
11月以降宿題から「自由ノート」へ変更

友達や教師に伝えたいことがあるときに自由にカードで作成し，提出できるようにした。

Yくん
（音声入力）

Tくん
（文字入力）

Kくん
（文字入力）



Mさん
（兄弟のサポート）

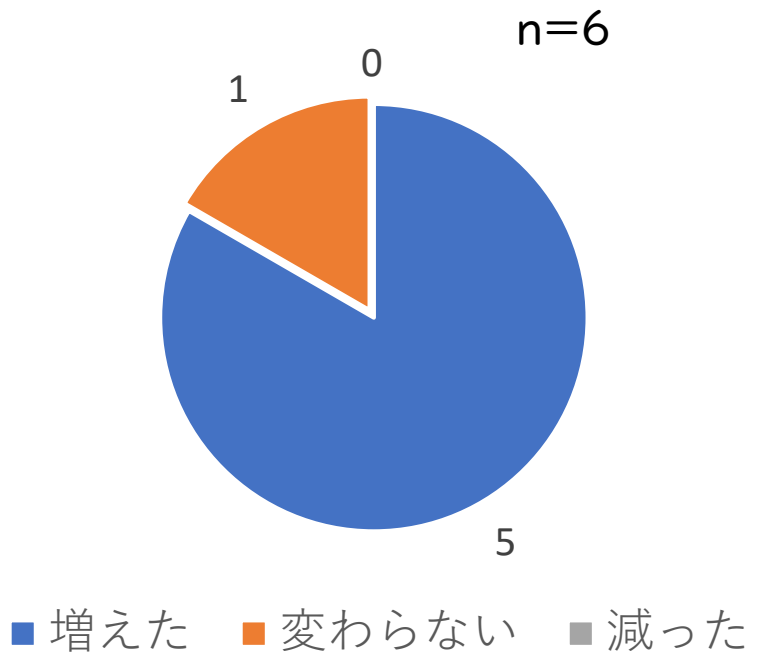
自分のことを発表できる，認めてもらえる，知ってもらえるという喜びや成就感が高まり，意欲的にカードを提出するようになった。

After

結果

※12月の保護者アンケート

①6月以前に比べて家庭生活での役割は増えましたか。



②ICTを活用した実践への感想

学習の様子をロイロノートを通して見ることができ，私たち親や祖父母にも見てもらえ，より理解を深める機会にもなったと思いました。

家庭での取り組む意欲が向上していると思います。授業の様子などが写真でわかるため，本人も伝えるのが楽しいようです。

「くらし」の復習として活用されていると思いました。他の学習でもやってほしいです。

書字が難しい我が子にとって，音声入力で文章を構成することが有難く，「自由ノート」を日記のように活用しています。

私より子どものほうが簡単に操作できていてびっくりしました。ICTの活用で宿題が楽しいようです。進んでやっています。

考察

実践を通して

○生徒の課題のみではなく，強みにも着目したことで，意欲的に学習に取り組むことができたのではないか。

○宿題の取組状況から自由ノートへ変更したことにより，生徒や保護者が取り組みやすくなったのではないか。

○朝の会で発表の場を設けたことにより，自分の取組を発表できる喜びや，達成感等につながり，各課題に意欲的に取り組むことができたのではないか。

情報活用能力の視点より

○実践を積み重ねながらICTの操作等のスキルも向上し，学習を確実に振り返ることができているのではないか。

○相手に伝えたいことをアウトプットし，相手に正しく伝わる経験を重ねたことで，相手のことを知ったり，自分自身の振り返りにつなげることができたのではないか。

今後の方向性

○ロイロノートに提出された自由ノートを保存・蓄積して，生徒の成長の過程を記録するポートフォリオとして活用したり，次の学年の担任等へ引き継いだり，評価や個別の指導計画の活用などを図っていきたい。

○中学部卒業までの長期的視点に立って，他の学習においてもICTを活用し，学習効果の最大化を図っていきたい。

○相手に分かりやすく伝えるための情報の見せ方や作り方等も今後は指導していきたい。

○定期的にアンケート調査を実施し，高等部やその先の進路へと確実につなげていきたい。